

エアゾール&受託製造産業新聞 2021年10月25日号

＜掲載記事＞

# CBDの水溶化に成功

## エスコ 顧客提案をスタート

化粧品OEMのエスコ（東京都渋谷区、石井純一社長）はこのほど、CBD（カンナビジオール）の水溶化など、新たに2題の技術開発に成功、顧客提案を開始した。

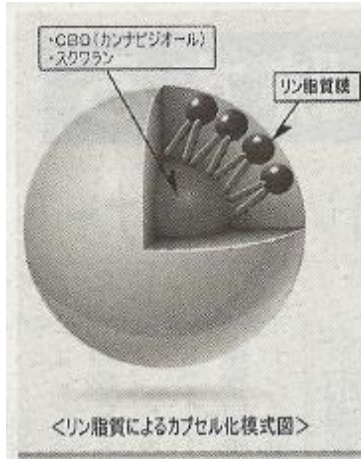
化粧品OEM工場とは一線を画し、製剤特許の取得も含め新規な技術開発を差別化点として伸ばしてきた。そしてこのコロナ禍でさらに開発力強化を加速、今年度から先駆技術として以下2題を顧客提案するに至った。

1 題目 「美容オイルが定石とされていたCBD化粧品市場を一気に打破し、あらゆるスキンケアに活用できると考えている」（技術部・谷本康統括マネージャー）。

2 題目は、近年、国内大手ブランドも革新技術として着目している物質、セラミドの持つラメラ形成能を付与しているという。

「美容オイルが定石とされていたCBD化粧品市場を一気に打破し、あらゆるスキンケアに活用できると考えている」（技術部・谷本康統括マネージャー）。

2 題目は、近年、国内大手ブランドも革新技術として着目している物質、セラミドの持つラメラ形成能を付与しているという。



「当社、一般的な化粧品から先駆技術として以下2題を顧客提案するに至った」（石井社長）。

1 題目は、同社が昨年から取り組んでいる「CBDオイルをカプセル抱合する事によって、化粧水やフェイスマスクといった水系製剤への配合と安定化を達成した（上図参照）。界面活性剤で可溶化した一般的な技術と差別化することで、顧客企業にとっての訴求力も付与しているという。」

2 題目は、近年、国内大手ブランドも革新技術として着目している物質、セラミドの持つラメラ形成能を付与しているという。

「アトピーなどの症状に悩まされる消費者の方にも、その顕著な肌質改善効果に大きな期待を寄せている。」

詳しい内容についての問い合わせは同社（03-5728-4050）まで。

のが困難とされてきたが、当社では界面活性剤や合成ポリマーといった製剤に必須とされる成分を一切用いないエマルジョン製剤の開発に成功、市場への提供が可能となった」（谷本氏）。

なお、従来の界面活性剤やポリマーを用いた一般的なエマルジョン技術とは異なり、技術根幹にあるラメラ設計による皮膚への有効性については既に論文発表されており、同社が行った試験においても驚異的なエビデンスが得られたという。